

# 医療ソーシャルワーカー基幹研修Ⅱ シラバス



公益社団法人 日本医療ソーシャルワーカー協会

2024年11月30日作成

# 目 次

医療ソーシャルワーカー基幹研修Ⅱ科目一覧	02
医療ソーシャルワークの価値と倫理Ⅱ	03
医療における「患者・家族」へのソーシャルワークⅡ	04
医療ソーシャルワーカーの連携・協働とチーム医療Ⅱ	5
医療ソーシャルワークで用いられる実践理論とアプローチⅡ	6
医療ソーシャルワークにおける面接の方法と技術Ⅱ	7
医療ソーシャルワークにおけるアセスメントの理論と方法Ⅱ	8
ソーシャルワーク記録Ⅱ	9
医療ソーシャルワーク実践の事例検討の方法Ⅱ	10
ソーシャルワークのスーパービジョンⅡ	11
医療ソーシャルワークの業務改善マネジメントⅡ	12
ソーシャルワーク・リサーチⅡ	13

## 医療ソーシャルワーカー基幹研修Ⅱ科目一覧

テキスト	科目名	研修開催形式	時間 (分)
第3章	医療ソーシャルワークの価値と倫理Ⅱ	Web ライブ	135
第4章	医療における「患者・家族」へのソーシャルワークⅡ	Web ライブ	135
第7章	医療ソーシャルワーカーの連携・協働とチーム医療Ⅱ	Web ライブ	135
第9章	医療ソーシャルワークで用いられる実践理論とアプローチⅡ	Web ライブ	135
第10章	医療ソーシャルワークにおける面接の方法と技術Ⅱ	Web ライブ	135
第11章	医療ソーシャルワークにおけるアセスメントの理論と方法Ⅱ	Web ライブ	135
第12章	ソーシャルワーク記録Ⅱ	Web ライブ	135
第13章	医療ソーシャルワーク実践の事例検討の方法Ⅱ	Web ライブ	135
第14章	ソーシャルワークのスーパービジョンⅡ	Web ライブ	135
第15章	医療ソーシャルワークの業務改善マネジメントⅡ	Web ライブ	135
第16章	ソーシャルワーク・リサーチⅡ	Web ライブ	135

医療ソーシャルワーカー医療ソーシャルワーカー基幹研修Ⅱ-1	
科 目	医療ソーシャルワークの価値と倫理Ⅱ
テ ー マ	ソーシャルワークの価値・倫理に基づくアセスメント、ジレンマについて理解する。
研 修 形 態	Web ライブ研修
研 修 時 間	135 分
テ キ ス ト	中央法規『保健医療ソーシャルワークの知識と技術ーキャリアアップのための実践力の構築ー』2023 年、第3章 24-33
目 的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「医療ソーシャルワークの価値と倫理Ⅰ」を学んだ上でこの科目を受講し、実践技術の知識を積み重ねる。</li> <li>2. 「旧定義」「新定義」の違いや意味について理解し、説明できる。</li> <li>3. 倫理的ジレンマの構造を具体的な事例などを使って学び、理解できる。</li> </ol>
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ソーシャルワークの価値・倫理について言語化して説明できる。</li> <li>2. 「社会正義・人権」といった西洋的価値や普遍的と思われてきたものが、「集団的責任・多様性の尊重」と対立し、ジレンマを生み出すことなどを学び、理解を深める。</li> <li>3. 倫理的ジレンマと、臨床的困難な事例の違いを説明できる。</li> <li>4. 事例を通して、具体的に倫理的ジレンマを学びことができる。</li> </ol>
伝 える 事 項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・価値・倫理と自身の実践を照らし合わせる重要性を理解できるようにする。</li> <li>・そのことで、倫理的ジレンマを認識でき、対応について考察できるようにする。</li> <li>・倫理的ジレンマを認識し、分析・対応する方法を検討できるような手段（モデル、ステップ等）を習得できるようにする。</li> <li>・演習では、受講者自身が実践とのすり合わせを体験でき、倫理的ジレンマについてグループディスカッションできるようにする。</li> <li>・医療ソーシャルワーカー基幹研修Ⅰでは、「転院相談」など資源配分、「クライアントの利益と自己決定の尊重」などの事例が受講者の理解を得やすいが、医療ソーシャルワーカー医療ソーシャルワーカー基幹研修Ⅱでは、「外国人との共生」「キリスト教圏以外の文化の多様性（体罰・虐待・女性蔑視など）」などから生じる倫理的ジレンマを、倫理綱領の改訂のポイントと併せて取り上げること検討する。</li> </ul>

医療ソーシャルワーカー医療ソーシャルワーカー基幹研修Ⅱ-2	
科 目	医療における「患者・家族」へのソーシャルワークⅡ
テ ー マ	家族についてのアセスメントや家族理論を理解する。
研 修 形 態	Web ライブ研修
研 修 時 間	135分
テ キ ス ト	中央法規『保健医療ソーシャルワークの知識と技術ーキャリアアップのための実践力の構築ー』2023年、第4章 34-43
目 的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「医療における「患者・家族」へのソーシャルワークⅠ」で得た知識を深める。</li> <li>2. 学んだ知識を踏まえ、具体的な家族の理解、活用方法として家族療法的アプローチによる支援展開について学ぶ。</li> <li>3. 実践について家族療法的アプローチを検討できる。</li> </ol>
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家族システムズ論について説明できる。</li> <li>2. ソーシャルワーカーとして支援すべき生活課題に、家族がどう関係しているのかについて理論を用いて説明できる。</li> <li>3. 自身の実践において家族システムズ論に基づく支援展開を説明できる</li> </ol>
伝えること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践に即して、演習等を用いて家族システムについて理解してもらうようにする。</li> <li>・事例を通して、支援展開を説明する際、図や表、マッピング技法等を用いてわかりやすく伝える。</li> </ul>

医療ソーシャルワーカー医療ソーシャルワーカー基幹研修Ⅱ-3	
科 目	医療ソーシャルワーカーの連携・協働とチーム医療Ⅱ
テ ー マ	組織間・地域連携・協働に関与する意義を理解し、的確な実践が行える
研 修 形 態	Web ライブ研修
研 修 時 間	135 分
テ キ ス ト	中央法規『保健医療ソーシャルワークの知識と技術ーキャリアアップのための実践力の構築ー』2023 年、第7章 168-176
目 的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ミクロレベルにおける連携・協働の枠組みと特徴を再認識する。</li> <li>2. メソレベルにおける連携・協働の枠組みと特徴を理解する。</li> <li>3. チーム運営（カンファレンス）について理解する。</li> <li>4. 連携・協働に専門職として積極的に関与する意義を見出すことができる。</li> </ol>
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 連携の有意性を理解し、連携・協働の意義について説明できるようになる。</li> <li>2. 組織や地域に対するアセスメントを意識化し、連携体制の構築ができる。</li> <li>3. 連携における促進・阻害要因の理解とともに、組織間・資源間における利害対立やコンフリクトの存在を意識できる。</li> <li>4. 連携・協働に専門職として積極的に関与することができるようになる。</li> </ol>
伝 える 事 項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連携・協働することが目的ではなく、連携・協働することで支援目標を達成しようとする「手段（方法）」であることを意識する。</li> <li>・チーム構築・連携体制構築に関する基礎知識を理解するとともに、そのアプローチ方法にも関心を寄せ、その基礎知識の理解を促す。</li> <li>・保健医療分野での連携・協働をめぐる過程を理解し、参画することが職務として不可欠であること。</li> </ul>

医療ソーシャルワーカー医療ソーシャルワーカー基幹研修Ⅱ-4	
科 目	医療ソーシャルワークに用いられる実践理論とアプローチⅡ
テ ー マ	ソーシャルワーク援助技術について理解する。
研 修 形 態	Web ライブ研修
研 修 時 間	135 分
テ キ ス ト	中央法規『保健医療ソーシャルワークの知識と技術ーキャリアアップのための実践力の構築ー』2023 年、183-195
目 的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「医療ソーシャルワークに用いられる実践理論とアプローチⅠ」を学んだ上でこの科目を受講し、実践技術の知識を積み重ねる</li> <li>2. 理論とアプローチについて更に学び、様々なアプローチを理解する。</li> <li>3. 事例を通して、具体的に理解する。</li> <li>4. 効果的なアプローチの選択を理解する。</li> </ol>
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「医療ソーシャルワークに用いられる実践理論とアプローチⅠ」で学んだ「ソーシャルワーク実践理論の 3 層（大きな理論・中範囲の理論・小さい理論）」から具体的な理論を、事例を通じて理解する。</li> <li>2. ソーシャルワーク実践で効果的なアプローチを選択できる。</li> </ol>
伝えること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例は適宜検討する（基本的にはテキストの事例を活用する）。</li> <li>・実践において効果的な理論が選択できるように、工夫する。</li> </ul>

医療ソーシャルワーカー医療ソーシャルワーカー基幹研修Ⅱ-5	
科 目	医療ソーシャルワークにおける面接の方法と技術Ⅱ
テ ー マ	ソーシャルワーク面接技術・ツールの利用方法について理解する
研 修 形 態	Web ライブ研修
研 修 時 間	135 分
テ キ ス ト	中央法規『保健医療ソーシャルワークの知識と技術ーキャリアアップのための実践力の構築ー』2023 年、第 10 章 196-207
目 的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「医療ソーシャルワークにおける面接の方法と技術Ⅰ」を学んだ上でこの科目を受講し、実践技術の知識を積み重ねる。</li> <li>2. 事例など、具体的な方法を使って面接の流れを実践的に学ぶ。</li> <li>3. 面接のツール・技術を学ぶ。</li> <li>4. 面接技術を基盤にし、「アセスメントの理論と方法」に繋ぐ。</li> </ol>
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療ソーシャルワーカー医療ソーシャルワーカー基幹研修Ⅰの学びを理解した上で、面接における知識を深める。</li> <li>2. 面接の実践的な流れを理解する。</li> <li>3. 効果的な面接ツールを理解し活用できる。</li> <li>4. 面接の技術を理解し活用できる。</li> <li>5. 面接技術を基盤にして、「医療ソーシャルワークにおけるアセスメントの理論と方法Ⅱ」に繋ぎ、ソーシャルワーク過程を理解する。</li> </ol>
伝えること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「医療ソーシャルワークにおける面接の方法と技術Ⅰ」を復習した上で受講することが望ましい。</li> <li>・エンゲージメントや面接全体の流れを学ぶことが、クライアントが不安なく面接に参加できる土台づくりであることを理解する。</li> <li>・医療ソーシャルワークにおける面接の方法と技術Ⅱの学びが、アセスメントの学習と繋がることを意識する。</li> </ul>



医療ソーシャルワーカー医療ソーシャルワーカー基幹研修Ⅱ-6	
科 目	医療ソーシャルワークにおけるアセスメントの理論と方法Ⅱ
テ ー マ	ソーシャルワークにおけるアセスメントを包括的に理解する。
研 修 形 態	Web ライブ研修
研 修 時 間	135分
テ キ ス ト	中央法規『保健医療ソーシャルワークの知識と技術ーキャリアアップのための実践力の構築ー』2023年、第11章 208-218
目 的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「医療ソーシャルワークにおけるアセスメントの理論と方法Ⅰ」を学んだ上でこの科目を受講し、実践技術の知識を積み重ねる。</li> <li>2. アセスメントの構成と方法について包括的に理解する。</li> <li>3. 必要な情報収集・再構成・知識・理論と項目との照合の重要性を理解する。</li> </ol>
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. クライエントの生活課題を客観的・システムの的に捉えて説明できる。</li> <li>2. 実践で自分が下した「判断」を意識化・言語化し、ソーシャルワークの枠組みに照らして再構成できる。</li> <li>3. 援助計画の根拠となるアセスメントを言語化できる。</li> <li>4. メソレベルの実践を、ソーシャルワークの観点から説明できる。</li> <li>5. ミクロ・メソ実践の関係を理解し、マクロ実践へ展開するべき課題を抽出できる。</li> </ol>
伝 える 事 項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者に事例提出を求め、提出された事例の中からメソレベルまでの、詳細な検討が可能な事例を選定する。</li> <li>・アセスメントに関する諸理論の中から研修目的に適合したものを採用し、検討の枠組みを提示する必要がある。システム理解の枠組みが含まれているものも提示する。</li> <li>・演習シート（グループワークによる作成）を活用してもよい。</li> <li>・マクロ実践への連動について意識する。</li> </ul>

医療ソーシャルワーカー医療ソーシャルワーカー基幹研修Ⅱー7	
科 目	ソーシャルワーク記録Ⅱ
テ ー マ	ソーシャルワークにおけるアカウントビリティを理解する。
研 修 形 態	Web ライブ研修
研 修 時 間	135 分
テ キ ス ト	中央法規『保健医療ソーシャルワークの知識と技術ーキャリアアップのための実践力の構築ー』2023 年、第 12 章 219-230
目 的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「ソーシャルワーク記録Ⅰ」を学んだ上でこの科目を受講し、実践技術の知識を積み重ねる。</li> <li>2. 説明責任（アカウントビリティ）とステークホルダーの種類を理解し、何の誰に対する記録なのかを理解した上で、記録の形式について選択できるようになる。</li> <li>3. 具体的な記録の方法について学ぶ。</li> <li>4. 記録の具体的な活用方法について理解し、体感する。 （事例検討、スーパービジョン等）</li> <li>5. 記録のリスクマネジメントが出来るようになる。</li> </ol>
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 記録の適切な形式について説明できる。</li> <li>2. 適切な文言を用いて記録することができる。</li> <li>3. ソーシャルワークにおける記録の位置づけについて理解し、その活用について説明できる。</li> <li>4. ミクロ・メソレベルのリスクマネジメントを行うことができる。</li> </ol>
伝 える 事 項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 演習を通じて適切な形式を選択できるようにする。</li> <li>2. 具体的な記載方法や表現方法、その意図等を表現できるようにする。</li> <li>3. 記録の活用方法について学び、実際に事例検討やスーパービジョンを行うことで、記録に不足している部分を指摘できるようにする。</li> <li>4. 記録におけるミクロ・メソレベルのリスクマネジメントを検討できるようにする。</li> </ol>

医療ソーシャルワーカー医療ソーシャルワーカー基幹研修Ⅱ－8	
科 目	医療ソーシャルワーク実践の事例検討の方法Ⅱ
テ ー マ	事例検討を通じて学ぶソーシャルワークの要素について理解する。 支援困難事例の対応について理解する。
研 修 形 態	Web ライブ研修
研 修 時 間	135 分
テ キ ス ト	中央法規『保健医療ソーシャルワークの知識と技術－キャリアアップのための実践力の構築－』2023 年、第 13 章 231-242
目 的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「医療ソーシャルワーク実践の事例検討の方法Ⅰ」を学んだ上でこの科目を受講し、実践技術の知識を積み重ねる。</li> <li>2. 事例の内省力を高め、事例の背景にある障壁について気づき、省察する。</li> <li>3. ソーシャルワークにおけるアドボカシーについて理解する。</li> <li>4. 医療現場でのアドボカシー実践上の障壁や課題を理解する。医療ソーシャルワーカーが事例検討を行う意義を理解する。</li> </ol>
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事例検討の複数の具体的な方法について説明でき、内省力の向上を図る。</li> <li>2. 実践における社会的課題（障壁）への理解を深め、説明できる。</li> <li>3. ソーシャルワーカーに求められるアドボカシーについて説明できる。</li> <li>4. 支援困難事例への介入理論やアプローチを説明できる。</li> <li>5. 自身の所属機関や地域において、事例検討の方法を選択することができる</li> </ol>
伝 える 事 項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「医療ソーシャルワーク実践の事例検討の方法Ⅰ」を復習した上で受講することが望ましい。</li> <li>・事例検討の具体的な方法について説明する。</li> <li>・支援困難事例におけるソーシャルワーカーの支援姿勢や支援の意義などを示す。</li> <li>・ソーシャルワーカーが実践しているアドボカシーについて事例を用いて説明する。</li> <li>・支援困難事例への対応における職業倫理や倫理的ジレンマを理解して検討する。</li> <li>・自身の所属機関や地域において、事例検討の手順や留意点を理解して、事例検討の方法を選択できるよう伝える。</li> </ul>

医療ソーシャルワーカー医療ソーシャルワーカー基幹研修Ⅱ-9	
科 目	ソーシャルワークのスーパービジョンⅡ
テ ー マ	ソーシャルワークにおけるスーパービジョン体制の重要性・意義について理解する。
研 修 形 態	Web ライブ研修
研 修 時 間	135 分
テ キ ス ト	中央法規『保健医療ソーシャルワークの知識と技術ーキャリアアップのための実践力の構築ー』2023 年、第 14 章 243-253
目 的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「ソーシャルワークのスーパービジョンⅠ」を学んだ上でこの科目を受講し、実践技術の知識を積み重ねる。</li> <li>2. スーパービジョンの意義や目的・様式・形態について理解する。</li> <li>3. スーパービジョン体制の基盤・体制・理論について理解する。</li> <li>4. スーパービジョン体制の稼働の効果について体感し、理解する。</li> <li>5. スーパービジョンの発達段階について体感し、理解する。</li> <li>6. スーパービジョン体制の道具として業務行動プログラミングについて学ぶ。</li> </ol>
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. スーパービジョンの概念理解を発達段階プロセスごとに理解する。</li> <li>2. スーパービジョン体制の意義とその捉え方について説明できる。</li> <li>3. スーパービジョンの理論及び方法の実践適用について検討できる。</li> <li>4. 業務行動プログラミングを体感し、業務に取り入れることを検討できる。</li> </ol>
伝 える 事 項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スーパービジョン体制はすでに構築されていることに気づき、積極的に利用できるようにする。</li> <li>・組織内外のスーパービジョン体制について区別し、利用できるようにする。</li> <li>・スーパービジョン体制は必須であり、スーパービジョン文化の醸成の為の基盤となるようにする。</li> </ul>

医療ソーシャルワーカー医療ソーシャルワーカー基幹研修Ⅱ－１０	
科 目	医療ソーシャルワークの業務改善マネジメントⅡ
テ ー マ	業務改善・開発・マネジメントの構造について理解する。
研 修 形 態	Web ライブ研修
研 修 時 間	135 分
テ キ ス ト	中央法規『保健医療ソーシャルワークの知識と技術－キャリアアップのための実践力の構築－』2023 年、第 15 章 254-266
目 的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保健医療分野におけるソーシャルワーク専門研修（医療ソーシャルワーカー医療ソーシャルワーカー基幹研修Ⅲ）等の研修につなげるようにする。</li> <li>2. SV の発達段階モデルについて理解を深め、活用できるようにする。</li> <li>3. 実習生、新人、新任・ベテランのための人材養成開発としてマネジメント体制、スーパービジョン体制、プログラミングを理解し、実施することができるようになる。</li> <li>4. 実施した業務や事業の評価の要素、項目、波及効果について理解する。</li> <li>5. 地域への影響を考慮したメソレベルの実践について理解する。</li> </ol>
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 業務マネジメントが他研修につながる基盤となることを理解する。</li> <li>2. SV の発達段階モデルについて理解し、活用できる。</li> <li>3. 実習生、新人、新任・ベテランのための人材養成開発としてマネジメント体制、スーパービジョン体制、プログラミングを理解し、実施することができる。</li> <li>4. 実施した業務や事業の評価の要素、項目、波及効果について説明できる。</li> <li>5. 地域への影響を考慮したメソレベルの実践について検討できる。</li> </ol>
伝えること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他研修（ソーシャルワークのスーパービジョンⅠ・Ⅱ、実習指導者養成認定研修、人材開発・養成講座等）とのつながりを意識して伝える。</li> </ul>

医療ソーシャルワーカー基幹研修Ⅱ－11	
科 目	ソーシャルワーク・リサーチⅡ
テ ー マ	ソーシャルワーク・リサーチにおける臨床疑問・研究疑問・ソーシャルワーク・リサーチの活用法・倫理的配慮について理解する。
研 修 形 態	Web ライブ研修
研 修 時 間	135 分
テ キ ス ト	中央法規『保健医療ソーシャルワークの知識と技術－キャリアアップのための実践力の構築－』2023 年、第 16 章 267-276
目 的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「ソーシャルワーク・リサーチⅠ」で得た知識を深める。</li> <li>2. 保健医療分野におけるソーシャルワーク専門研修（医療ソーシャルワーカー基幹研修Ⅲ）につなげる。</li> <li>2. ソーシャルワーク・リサーチの展開過程を理解し、臨床疑問・研究疑問を設定する。</li> <li>3. 研究方法について学ぶ。</li> <li>4. ソーシャルワーク・リサーチを実践に取り入れることができる。</li> </ol>
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「ソーシャルワーク・リサーチⅠ」で学んだソーシャルワーク・リサーチの展開過程を再確認する。</li> <li>2. その上で、臨床疑問・研究疑問の立案を行うことができる。</li> <li>3. 適切な研究方法について検討できる。</li> <li>4. ソーシャルワーク・リサーチの意義を理解し、実践に取り入れることができる。</li> </ol>
伝えること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床疑問と研究疑問の立案までの過程に関する演習等を取入れる。</li> <li>・ソーシャルワーク・リサーチの倫理的配慮について具体的に例を用いて説明する。</li> <li>・保健医療分野におけるソーシャルワーク専門研修（医療ソーシャルワーカー基幹研修Ⅲ）へつながるように伝える。</li> </ul>